



創立四十周年記念誌

江津市文化協会



歌 山藤 通之 筆
像 田中 俊晞 作

江津市文化協会会長あいさつ

江津市文化協会会長 森 脇 東 雲（哲朗）

江津市文化協会は、十一月に四十周年の記念すべき文化祭・記念式典を催すことができました。このことをまずもって、皆様とともに喜びたいと思います。

四十年前、江津市で文化活動をしている皆さんが心一つにして文化協会を設立しました。江津市を文化の香り高い住み良い町にしようという思いからです。文化協会の目標は「江津市における文化活動の振興・発展を図るとともに、市民の文化意識の啓発・鑑賞能力の向上に努めること」です。毎年十一月に開催する文化祭を中心に、各グループが特色を生かした活動を続けて参りました。

江津市における文化活動の原点は、今から約一三〇〇年前、日本ではじめての歌集「万葉集」の代表的歌人である柿本人麻呂が石見の地に来て、都野津にいたという「依羅娘子（よさみのおとめ）」を恋い慕って詠ったという「石見相聞歌」ではないでしょうか。四十周年記念講演会では、神 英雄先生に「万葉集と江津」と題して記念講演をしていただきました。

文化協会加入団体は、展示部門では、書道、茶道、華道、写真、絵画、水墨画、ウロコアート、焼絵・木彫、盆栽、文化財研究、短歌、川柳、俳句があります。発表部門では、詩吟、日本舞踊、大正琴、合唱等があり、全部で二十六団体（団体及び個人）となります。また、文化協会の事務局は、教育委員会社会教育課の中にあり、市をあげて文化活動の振興にご理解・ご協力をいただいています。

会員の高齢化に伴い、会員数の減が進んでいます。新しい会員を募りながら、新しい団体の加入を促し、五十周年に向けて地道な文化活動を続けて参りたいと思います。

終わりに、文化協会を支え、盛り上げていただいた故人、役員、会員、そして市民の皆さんに心から感謝申し上げます。発刊の言葉といたします。

江津市長祝辞

江津市長 中村 中

江津市の文化振興を担われ、本年四十周年を迎えられました。深い敬意を込め、お慶び申し上げます。創立三十周年の際にも記念誌が発行され、あれからもう十年です。「十年一昔」という言葉がありますが、この十年は特に実感するものです。

令和二年始めから拡大した新型コロナウイルス感染症により、貴会のすべての文化活動は制限されました。毎年行われていた江津市文化祭の中止、各所属団体での定期的な個々の活動も休止されました。一度止めてしまった活動の再開は、大変困難なことと思いますが、貴会所属団体等の活動は序々に再開され、令和四年には江津市文化祭を開催されています。これは、貴会の皆様のためまぬご努力と連帯感の賜物です。

本市においても、例外なく少子高齢化は進んでおり、各団体の活動の継続や活性化は簡単なことではありません。人口二万一千人の小さな市であっても、文化的には豊かな市として今後とも江津市の文化振興を慈しみ育てていただきますようお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様のご健勝とご多幸と祈念し、創立四十周年記念の祝辞とさせていただきます。

江津市議会議長祝辞

江津市議会議長 藤間 義明

江津市文化協会創立四十周年記念誌の発刊おめでとございます。

皆様方には平素から何かとご協力ご支援を賜っておりますことを、厚くお礼申し上げます。

昭和五十九年の発足以来、貴協会が文化団体相互の連携を密にして親善融和を図られるとともに、多岐にわたる活動を通じて多くの成果を積み重ね、本市芸術文化の振興に貢献されていることに心からの敬意と感謝を

申し上げます。

さて、日本全体が人口減少社会に突入した現在、かつては地域伝統や芸術文化を豊富に保有していた多くの地域においても、後継者や文化財、伝統文化の保存継承が大変難しくなってきました。

このような困難な状況ではありませんが、会員の皆様におかれましては、さらなる技術や才能を開花されることにより江津市の文化がますます発展されるよう、ご尽力をお願いいたします。市議会といたしましても、文化の振興を積極的に支援していく考えております。

最後になりましたが、会員の皆様方ますますのご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、貴協会の繁栄を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

江津市教育委員会教育長祝辞

江津市教育委員会教育長 堀 康 弘

共に歩んできた、江津市文化協会の創立四十周年を心よりお慶び申し上げます。

十一月には記念式典も開催され、長年文化振興に携わって来られた団体の表彰もありました。継続は力なりのとおり、皆様が植えられたたくさんさんの文化の種が、現在美しく花が咲き、またはまだ咲いてなくとも、つぼみとなつて心の中で静かにあることなど、思いを馳せながら感謝の意を感じたところです。

さて、貴会を構成する各団体、個人の皆様は、書道や絵画をはじめ、新たな芸術として挑戦されたウロコアトなど、枚挙にいとまがない多様な活動があります。個々では研鑽や癒しの活動であっても、江津市文化協会の活動となると、誰かのための活動として、多くの時間を費やすこともあります。ところが、これまで私が拝見する会員の皆様は、いつも笑顔で気さくで、そしてエネルギーが豊富です。この安心感と信頼感は、文化活動が生んだものと思わずにはいられません。

今後とも、変わらぬ貴会の活発な活動を願うと共に、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

目次

会長あいさつ	
祝 辞	
江津市文化協会 加入団体	2
歴代会長紹介	2
文化協会文化祭の実績	3
四十周年記念式典	3
四十周年記念誌によせて	5
アルバム	20
江津市文化協会規約	25
総会員数・団体数の変遷	28
江津市文化協会 役員名簿	29
編集を終えて	29



画 相良 勝喜

表紙揮毫 森脇 東雲

表紙・裏表紙写真 小林 茂雄 撮影

加入団体

種別		団体名		種別		団体名			
茶道	華道	江津市文化協会茶道部表千家 嵯峨御流華道石見司所	(二社) 茶道裏千家淡交会 江津支部	文芸	江津短歌会 さくらえ番傘川柳会	江津市連合俳句会			
								文化協会華道家元池坊部会	清吟堂吟友会 浜田ブロック
美術		江津書道連盟 木寿会 江津写真クラブ 江津市絵画クラブ		芸能	詩吟 森下 秋子 (個人)	日本舞踊 藤蔭流 美之会 日本舞踊 藤間流 藤恵会 日本舞踊 藤蔭流 藤妙会	日本舞踊 藤蔭純春 (個人)		
								泉墨会	友扇会
								ウロコアート	なのはな一座
								焼絵・木彫 (個人)	琴名流大正琴 琴扇芳の会
								江津盆栽会	江津市民混声合唱団
								江津市文化財研究会	
								郷土芸	音楽

歴代会長

氏名		任期期間	
初代会長	井 廻 育 男	昭和五十九年～平成九年	十四年
二代目会長	山 藤 通 之	平成十年～平成二十七年	十七年
三代目会長	黒 川 貢	平成二十八年～令和三年	六年
四代目会長	森 脇 東 雲	令和四年～現在	三年

文化祭の実績

平成二十七年	展示部門 十四団体 十月三十日(金)～十一月一日(日)	発表部門 十四団体 十一月一日(日)
平成二十八年	展示部門 十五団体 十一月四日(金)～十一月六日(日)	発表部門 十二団体 十一月六日(日)
平成二十九年	展示部門 十三団体 十一月三日(金)～十一月五日(日)	発表部門 十三団体 十一月五日(日)
平成三十年	展示部門 十三団体 十一月二日(金)～十一月四日(日)	発表部門 十一団体 十一月四日(日)
令和元年	展示部門 十二団体 十一月一日(金)～十一月三日(日)	発表部門 十一団体 十一月三日(日)
令和二年	新型コロナウイルス感染症拡大による中止	
令和三年	新型コロナウイルス感染症拡大による中止	
令和四年	展示部門 十一団体 十一月四日(金)～十一月六日(日)	発表部門 四団体 十一月六日(日)
令和五年	展示部門 十三団体 十一月三日(金)～十一月五日(日)	発表部門 七団体 十一月五日(日)
令和六年	展示部門 十三団体 十一月二日(土)～十一月三日(日)	発表部門 八団体 十一月三日(日)

四十周年記念式典・講演会

令和六年十一月三日、江津市総合市民センターにおいて、江津市文化協会四十周年を記念して式典が執り行われた。

中村市長をはじめ、関係者が一堂に集い栄えある式典を祝った。



右から 森脇 東雲 会長
鹿森 偉左雄 副会長
植田 畦水 副会長
宮里 勝子 副会長
司会 渡利久美子 氏



左から 中村 中江津市長
坪内 涼二 島根県議会議員
藤間 義明 江津市議会議長
堀 康弘 江津市教育委員会教育長
田中耕太郎 浜田市文化協会会長



文化協会会長と被表彰者（団体及び個人）

後列左から 江津写真クラブ 松井 宏祐氏 江津盆裁会 野田 稔博氏 森脇 東雲 会長
 前列左から 江津市絵画クラブ 能美 睦氏 山藤 通之氏（元会長） 江津市文化協会茶道部表千家 小林 寛子氏



式典後には、記念事業として講演会が行われ、講師の島根県地理学会会長の神英雄氏が「万葉集と江津」を歴史地理学の立場から明かした。石見の地の名産品、景勝地の紹介から石見の魅力を語られ、講演会終盤には、柿本人麻呂の相聞歌を熱く語られた。

○講演内容○

1. はじめに — 「万葉集」のあれこれ—
2. 中国・山陰のいわれ
3. 古代山陰道と江津
4. 柿本人麻呂の石見
5. むすび — 都人が憧れた石見—



文化協会創立四十周年記念に寄せて 「つなぐ・つながる・広がる」

裏千家淡交会江津支部 幹事長 阿部 宗 香

創立四十周年心よりお慶び申し上げます。
コロナ禍による中止が解け、呈茶席も再開され、呈茶席を担当させて頂きまますこと幸いに存じます。

文化祭は日本の総合的文化と言われる茶道の発信と一碗で市民の皆様との親睦のできる良い機会となっております。また、今井美術館の院展でも原風景とマッチした庭園で毎年おもてなしさせていただいております。

人口減少、生活様式の変化の中で伝統文化の衰退が著しく継承にも影響があります。が、今後も一碗で繋ぐ絆をつなぎ合わせて茶道の良さが市民の皆様にも少しでも広がることを願い、表千家様と共におもてなしさせていただきます。

江津市に伝統文化、新たな文化が根付き、より一層豊かになりますことを祈念いたします。



淡交会江津支部臨時総会 物故者・茶筥供養
令和6年(2024)9月23日

創立四十周年記念によせて

江津市文化協会茶道表千家 会長 小林 寛子

江津市文化協会創立四十周年、心よりお祝い申し上げます。

茶道表千家は文化協会設立とともに、昭和五十九年に初代会長湯浅慶子様のもと会員数二十一名で発足し、二十年後には百十三名の会員数になりました。現在は、三十九名で活動を継承しています。減少は全国的な傾向にあります。

本年四月二十一日、和木地域コミュニティ交流センターにて、茶道表千家創立四十周年記念大会を開催いたしました。当日は来賓として、中村中市長様、藤間義明市議会議長様、森脇東雲文化協会会長様、大賀昌紀教育委員会社会教育課課長様、阿部宗香茶道裏千家淡交会江津支部幹事長様のご臨席をいただき、薄茶席を設け無事に楽しい一日を終えることができました。

江津市文化祭では、新型コロナウイルスが流行し、しばらくお茶席をお休みしていましたが、五類に移行後、昨年十一月五日にお茶席を設け、皆様方に喜んでいただきました。裏千家淡交会江津支部様と隔年で点で出して設けています。

今後も多くの方のご支援、ご協力に感謝しながら、茶道の魅力をお伝えし、会員増を目指し努力する所存でございます。

最後に、江津市文化協会の益々のご発展をお祈りいたします。



文化協会創立四十周年記念によせて

嵯峨御流華道石見司所 司所長 川 端 裕 甫

江津市文化協会創立四十周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。また、記念事業にご尽力を頂き厚く御礼申し上げます。

いけばな嵯峨御流は、京都の大覚寺を家元とする流派です。私達、石見司所は初代司所長 山本褒月様、二代 西田伊都甫様、三代 室北竜甫様、四代 無川ヒトミ甫様、現在は五代 川端裕甫へと継承され、七十数年を迎え、江津市文化祭に出瓶させて頂いてまいりました。季節の花材や花器選び、お花を生けこむ時の楽しさや緊張感が入り混じっております。会場にお見えになりました皆様は、うれしいお言葉をかけていただき、喜びや励みになり、感謝申し上げます。

浜田市、江津市、大田市などで勉強会や地域に展示し交流を深めております。皆様一緒にいけばなを楽しみませんか。江津市文化協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



文化協会創立四十周年記念によせて

華道家元池坊部会 永 井 光 見

江津市文化協会創立四十周年心よりお祝い申し上げます。

華道家元池坊は、五百六十年余りの歴史があります。時代と共に環境の変化、生活様式の変化、家族構成の変化の中、池坊部会は仲間意識、協力を基礎に研究会、講習会、普段の稽古と研鑽を積み切磋琢磨してまいりました。この文化祭の出瓶を機に、さらなる向上を目指しています。

花の形は立花、生花、自由花。それぞれの役割と共に季節感、素材を生かしながら楽しんでおります。

花を生けられることに感謝し、生活に潤いを求め、新たな気持ちでこの四十周年を機に池坊の発展に繋げていきたいと思っております。

最後に江津市文化協会の発展をご祈念申し上げます。

江津書道連盟のあゆみ

江津書道連盟 事務局 梅田賀千

漢字・かな・近代詩文・前衛・篆刻などの会員内外の作品を展示し、平成二十一年からは書道パフォーマンスや書道吟も実施している。近年、出展者の減少対策として出品要領の緩和（額装の他、裱装や軸装等も可）や展示作品の鑑賞会の開催など、新しい試みにも取り組んでいる。

当連盟の創立は昭和六十年（一九八五）。初代会長に原田英峰が就任し、約一五〇名の会員でスタート。その後、平成十一年（一九九九）より令和二年（二〇二〇）まで山藤耕子、翌三年より森脇東雲が会長に就任。現在の会員数は約六十名。

主な活動内容は、役員会の開催（年二回）や会報誌『書友』の発行、毎年開催の総会は五年毎に記念会も実施し、十五年以上の会員へ「永年会員表彰」を行い、生涯学習の啓発にも努めている。そして、会員同士の交流の場となっている勉強会（古典・創作など）を毎月一回実施し、親睦を図るとともに書道研鑽に励んでいる。また、会員のなかには書道教室を開き、書道の普及と当連盟への勧誘に努めている。

毎年恒例の江津市文化祭では、書道展を開催し、



江津市文化協会四十周年に寄せて

木寿会 代表 田中俊晞

おめでとうございます！

緑豊かな山、川、海この環境の中で彫刻を縁として気心の知れた仲間で「木寿会」を発足して一彫りひとほり試行錯誤しながらも好きな創作活動四十五年の歳月。時間を根気よく自由奔放に刻む過程で自分らしい適当なカタチを刻む世界は難しいものですが、「今度こそ、今度こそ」と、進めています。それも皆様方に支えられ一歩一歩の絆を糧として「創る人と鑑賞する人」の交流の輪のコミュニケーションを軸に積み重ねた足跡の価値観はどうであれ私たちの生きた証。古里の風習、伝統、思考、技術を次の世代に息吹く根っこを育てる努力事が文化協会の任務と思います。

彫刻家 平櫛田中（ひらくしでんちゅう）さんの名言に「五十、六十、洩垂小僧（はなたれこぞう）、七十、八十、花盛り、九十でお迎え聞こえません」と。私達も歳はとつてもギッチラコ、ギッチラコ井戸の中を老若男女自由に泳いで喜怒哀楽共に生きた証を「長寿戯画」として共有したいものですネ。
文化の薫る古里を望みます。



同士の絵に心動かされて

江津絵画クラブ 花田寿美

『年に一度顔を合わせる、まるで七夕さんですね…。そのような挨拶で日頃たのしんで描いた作品を持ち寄って並べます』

これは、先頃天国へと旅立たれた加藤勝子さんが書かれた創立二十周年記念誌の一文です。文化協会創立当初より四十年、文化祭に絵画を出陳され続けて、江津の絵画の同士のリードし、寄り添い支えて下さいました。

まさに加藤さんの言葉通り、江津絵画クラブは一つのみとまったグループではありません。江津在住者のみならず、ゆかりのある市外の方、展覧会で入選を重ねるベテランの方、初心者だが絵が好きで勉強中の方が年に一度の文化祭出陳で顔を合わせます。そしてお互いの作品に心動かされて感性を高め、勉強し合う仲間の集まりなのです。

そんな江津市内外の同士を結びつけて頂く江津市文化協会の活動が今後もずっと盛会で、十年後の五十年へと繋いで行かれますことを祈念いたします。



焼絵部門・文化協会の一員として

焼絵・木彫 島田 洋三

江津市文化協会四十周年おめでとうございます。私は昨年から文化協会へ入会しました新人ですが、八十代の仲間入りをしています。文化祭での作品の展示も大変でしたが、なんとか無事に展示ができて安堵しました。早いもので今年もまたその季節が近づいてきました。

暑さの中、何とか新作を作っておりますが、高齢で来年の事はわかりません。一人でも仲間が参加してくれたら助かりますが、使用する電気やコテも高価なものですし、作品は誰でも作れますが、根気のいる作業となります。

私は葛飾北斎の絵がとても好きで模写もたくさんしています。ですが、江戸時代によくこんな立派な人物がいて絵を描けたと感心し驚いています。私は少しでも一歩近づけたら良いなと思い、一筆一筆を描いています。

江津にも変わった人がいると、観てもらえたら私の喜びです。

今後、共に頑張って文化の向上に努めますので、皆様宜しくお願ひ致します。



夢に向かって

ウロコアート代表 佐々本 順左衛門

鮮魚店を営んでいた私は、毎日の作業で大量に出る魚の鱗や皮を見ながら「これで何か作れないか、もったいない」と思い、ほんの遊び心で作品作りを始めました。

作り重ねるほどに楽しくなっていく中、完成した作品は数年で黄ばみなどが発生し、せっかく時間をかけて作った自分の作品が褪せていくのがたまらなく残念だったのを覚えています。何度も色々な種類の漂白剤を試したり、洗剤を取り寄せてみたりと、作品を永く楽しむための工夫を何度も凝らしながらようやく現在の保存方法まで辿り着きました。その後もたくさんさんの試行錯誤を重ね、今では自分の思い描いたとおりのものを作品にすることができ、ウロコアート教室も開催させていただけるようになりました。これまでウロコアート展にはたくさんの人に来て頂き、喜んで頂きました。江津市、今井美術館、島根県立しまね海洋館アクアス、出雲・多伎文化伝習館、たくさんさんの感想文を書いて頂き、心より感謝しています。江津市文化祭もたくさんの人に来て頂き、喜んで頂きました。身近にあるものでたくさんさんの作品に出来ることを皆様にも知って頂き、アートを楽しんで頂けたらと思います。



江津市文化財研究会のこの十年

江津市文化財研究会 会長 田 中国 男

本会は、市内に文化財の調査研究を主な目的として、昭和四十年に発足した。その成果は冊子『石見潟』に刊行してきた。今回は、三十周年以降の活動について記載したい。



- 平成二四年 石見潟二六号『江津の町並み』発行
- 平成二七年 石見潟二七号『江津市の石碑』発行
- 平成三一年 石見潟二八号『江津市寺院のかくれた文化財』発行
- 令和五年 『江津の美術く公共施設の美術品調査報告書』発行
- 令和五年 同右…市長への贈呈式(市庁舎)、報告会(市民センター)
- 令和六年 同右…展覧会(今井美術館・実行委員会)
- 令和八年 石見潟二九号『江津の盆踊り(仮称)』発行予定

毎年の事業としては、市内中心の「歴史探訪」、県外中心の「研修視察」を行ってきた。また、年2回の会報の発行も行ってきた。しかし、令和二年からの新型コロナウイルスの感染流行により約三年間の活動中止や社会情勢の大きな変化で、内容や在り方、実施方法等の変更を余儀なくされている。

最後に、興味関心のある方のご加入を願っております。先人の遺した江津市の「文化遺産」を継承・発展させつつ、心豊かな街にしたいと存じます。

歴史探訪の例



津和野 堀家視察



報告会



展覧会準備(展示)



心をたがやす

江津短歌会 代表 宮里 勝子

江津市文化協会創立四十周年記念、心よりお祝い申し上げます。前回の記念式典に参加した日のことが昨日のようです。当時の記念誌の豪華さを目をみはったものです。現在の江津短歌会の会員数は十六名、十年前とほぼ変わらないものの、体調の変化により歌会に出席叶わなくなった方が増えました。また、互いに高齢者となり、移動の手段もままならないのが現状です。他の地域では閉会に追い込まれていくグループも少なくありません。このような中、他県や施設に移られても作歌意欲は衰えず出詠してくださる会員の方々に励まされていることが多い日々、先人の灯された（心をたがやす）歌作りの灯を消すことがないように歩んでいくのが目標です。「努力は天才を超える」パリオリンピック柔道男子六十六kg級で二連覇を遂げた阿部一二三選手の言葉を心に刻みました。江津市文化協会の益々の発展を祈ります。



創立四十周年を祝して

水墨画泉墨会 清水 泉州

創立四十周年、心よりお祝い申し上げます。初作品は昭和六十年頃で当時はクラブ的なものではなく、同好の五、六人の出品でした。年々出品される方が増えて、平成十年に泉墨会を結成し、以後毎年三十点を選出出品してきました。その間、二十数年になりますが、会員の皆様の積極的な活動が、江津地区の水墨画の普及拡大の原点になったと思います。

この四十周年を機に益々の研鑽努力に努め多くの方々に観賞評価を頂いて地域の美術文化向上に寄与したいと思います。



さくらえ番傘の歩み

さくらえ番傘川柳会 会長 渡辺康乃

昭和五十八年十一月、桜江町文化協会が発足し、川柳の愛好者が集いました。そして船津信前会長のもと、昭和六十三年句集「さくらえ川柳」が誕生しました。平成元年に「かなみ川柳会」が発足し、令和六年六月、第四〇〇号記念句集を発行。また、平成四年には「大橋川柳会」が発足し、令和六年十一月には第三八五号を発行。そして平成十年に「番傘」の認可を頂き、「さくらえ番傘川柳会」の名のもとに、毎月の句会、句集発行等、皆様の協力により継続しそれは自信と誇りになっています。

令和二年より「さくらえ番傘誌上川柳大会」を実施し、今年は七十五名の参加がありました。これからも続け、だれでも参加でき、皆様に愛されるさくらえ番傘になっていければと思っています。

江津市文化祭、桜江いきいき祭りの出展等、江津市文化協会の一翼を担いたいと思います。



「深は新なり」

連合俳句会 能美 顕之

江津市文化協会四十周年おめでとうございます。

私は俳人であった故能美丹詠（祖父）の影響を受け、俳句を始めました。子供の頃、祖父が折に触れ、連れて行ってくれた海辺のドライブイン。決まって鍋焼きうどんを啜る私を横目に、祖父はいつも海を眺めていました。手には句帳。「顕之、秋の海は広いのお、大きいのお」。海を眺める穏やかなまなざしと、いつもこぼれる季節への感嘆の言葉を今、懐かしく思い返しています。

「深は新なり」という高浜虚子が提唱した理念があります。新しいものは遠い場所をむやみに探さずとも、身近な場所を深く掘り下げた先にある、という意。この四十年間、社会を取り巻く世相や環境は日々新たに変わって続いています。ただ、そこにいつもある自然の営みは変わらない。江津市の俳句界を支えて下さった先人の方々は、句を通してその変わらない事象への感動を伝え続けて下さいました。その末端にいる事を光栄に思い、心より感謝申し上げます。

現在、江津市では笹鳴句会（都野津）のお世話により毎年「人麿忌俳句大会」が開催されています。私がお世話をする木蓮句会（跡市）は休会中。祖父の面影を辿り、小さくなりながら、この原稿を書いています。



日本の未来へつなぐ伝統芸能

清吟堂吟友会 浜田ブロック 会長 鹿森 偉左雄

私達浜田ブロックは、来年結成六十周年を迎えます。清吟堂吟友会本部は四国松山市にありますが、創立七十周年を昨年、令和五年八月五日に迎え、十月一日に記念大会が挙行されました。その記念誌により振り返ってみますと清吟堂の名称は『清く明るくまろやかな清明心の吟の流れてくる家』との思いで寄り所として使われた練習場所でありました。また、会は宗家の会ではなく「吟の友の会」であり、主体性は会員にあるということ、『清吟堂吟友会』と命名されたと言われています。会を良くするも悪くするも皆の責任であり、役員は皆の代表役、世話人である。和気藹々と仲の良い吟友でり皆が良くしていくのであると記載されています。

浜田ブロックは、昭和四十年八月に発足しました。当時、浜田法務局に四国から転勤された方が朝早く朗々と詩を吟じておられるのを聞き、感動して支部を結成し、各地区に支部結成をされていかれました。その一粒の種は、浜田から邑智・益田・大田と、西部から東部、更には島根県全体



に吟詠の輪が広がり、現在に至っています。

私達は、浜田と江津の文化祭に参加し、構成吟詠や吟剣詩舞、書道吟、華道吟等舞台発表し詩歌の美しさ心情を表現しています。

また、発声は呼吸が大事であり、腹から声を出す腹式呼吸は、健康長寿にも役立ち、リラククスして生活出来る事をPRしています。

詩歌を吟じて楽しみ、美しさを見出し、明るく健康な郷土を築き、今後共、私達は地域社会に貢献していきます。

四十周年記念誌によせて

日本舞踊 藤陰流美之会 藤陰美之

創立四十周年おめでとうございます。公民館活動の一環として始めた私たちの会も、昭和、平成、令和と時代の移り変わる中、頑張って練習を積んでまいりました。SNS・X(旧Twitter)・AIといった高齡者世代には中々ついていけない世界。どの業種においても高齡化や後継者不足で大変な局面をむかえられているのではないのでしょうか。私共の会も若い方々の参加はなく、寂しく思う昨今です。

文化協会におかれましても、どんどん新規加入団体が増え、五十年、六十年と益々ご発展されますことを祈念申し上げます。また、協会役員、市職員の方々のご尽力に深く感謝いたします。



江津市文化協会設立四十周年に向けて

日本舞踊 藤陰流 藤陰純春

江津市文化協会の創立四十周年おめでとうございます。私は、高校生の時「名取り(流名)」をいただきました。結婚・育児のブランクを経て平成二十九年に「師範」の免状をいただきました。小学校卒業文集に書いた将来の夢は、日本舞踊の先生でした。

昨年、日本舞踊が国の重要無形文化財として指定を受け、(舞踊家四十名・演奏家十六名)が認定されたそうです。

個人の協会参加ですので、大変微力ではありますが、日本の伝統芸能の継承と江津市文化向上のため、尽力できればと思っております。江津市文化協会の益々のご発展を心からお祈りいたします。



創立四十周年に寄せて

日本舞踊 藤間流藤恵会 黒川 滋子

江津市文化協会の創立四十周年、誠にめでとうございます。

藤恵会は、平成十四年に発足し、その時から文化祭には出演させていた
だいております。文化祭への出演のほか、毎年一回定期舞踊会を開いてい
ますが、発表会では衣裳付きの本舞台で踊ることもありました。また、地
域の文化祭・敬老会への参加、老人施設への慰問などの活動を行って
おります。

会主「藤間晃正恵」先生は、しなやかさや美しいものを求めて選曲し、
振り付けも品よくと指導されています。最近では日本舞踊をより身近で、親
しみやすいようにと考えての踊りも取り入れています。平素の稽古では、
心身の健康維持と病気の予防のためと頑張っていますが、年齢を重ねると
動きも鈍く、所作を覚えるのも一苦労しています。仲間との会話を楽しみ、
自らを励ましなが
これからも頑張つて
いきたいと考えてい
ます。また、若い方々
が入会し、引き継い
でくださることを望
んでいます。

文化協会の活動が
益々盛んになり、継
続されることを願っ
ています。
会長様、会員の皆
様お世話になります。



会のあゆみ

日本舞踊 藤蔭流藤妙会 谷田 時子

江津市文化協会の創立四十周年を迎えられましたことを心からお祝い申
し上げます。

私ども藤妙会は藤蔭流芳恵会 藤蔭流芳恵師にお声がけいただき、平成九
年度より文化祭の舞台出演をさせていただいております。

日本舞踊藤蔭流藤妙会としては平成二十四年度に江津市文化協会に入会
いたしました。ご縁に会員一同、深く感謝しております。

日本の伝統文化は永い歴史を紡いできています。日本国の大切な財産、
宝です。文化に携わる一員として伝統を継承し、微力ながら貢献できま
すよう努力精進する所存です。

今後、江津市の文化向上と益々
のご発展を心よりお祈りいたしま
す。



文化協会創立四十周年記念によせて

琴名流大正琴 琴扇芳の会本部理事 会主 中村 芳江

創立四十周年、心よりお慶び申し上げます。

江津市文化協会の四十周年の記念誌を発行されます事、重ねてお祝い申し上げます。多種多様な団体の活動を受けとめ、支え合い、四十年という長い歳月の存続に、敬意の思いでいっぱいでございます。代々の会長様、役員の皆様方に心から感謝申し上げます、文化協会の一層のご発展を祈念いたします。

私たちも平成三年に入会し、文化協会のお力添えを頂き、平成十年第五回、平成十四年十周年、平成二十九年二十五周年と年代ごとに、市民文化ホールにて記念演奏会を開催し、毎回、県知事様、江津市長様よりご祝辞を頂きました。また、多くの後援・共催と公益信託しまね女性ファンド事業より助成金で多大な支援、文化協会様より貴重な助言を頂き、盛大に演奏記念大会が開催できました。皆様方より多くの恩恵を賜りました事、御蔭様と会員一同感謝の日々を送っております。琴名流本部は名古屋に所在し、年一度の全国大会に十二年間出場し、多方面から育てて頂き、宝の経験を身に付けているチームでございます。「心豊かに自立老後を目指します」私たちの理念でございます。今後も日本文化の音色に触れあいながら、各地区行事の参加演奏、二十五年以上継続している施設・学校訪問指導等の活動に力を入れ、健康づくりにも趣向をこらして、



会員一丸となり邁進いたしたいと思えます。未熟な私たちではございますが、末永いご支援ご指導を宜しくお願い申し上げます。皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

歌声で感動する町づくり

江津市民混声合唱団 団長 高橋 百合子

江津市文化協会創立四十周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。さて、私たちの江津市民混声合唱団は、表題をスローガンに設立して、今年で十六年目を迎えております。日頃の学習成果の発表の場として、二年毎に定期演奏会を開催しています。五年ぶりに昨年十月、第六回を終えたところですが、当合唱団の創始者で初代常任指揮者の箱上初男先生が第三回定期演奏会後に急逝、現在は田中健一先生のご指導で、毎週水曜日に練習に励んでおります。また、ボイストレーナー松江保乃先生には、団員の個人レッスンを指導頂いております。

コロナ禍は除き、江津市文化祭やチャリティーコンサートへの参加、また、江津市内の小・中学校へ出掛ける「歌の宅急便」では、児童や教職員の皆様に、様々な場所で四部合唱を披露しています。パレット江津に於いては、三ツ星コンサートで小グループ参加をして、身近の聴衆の方々と触れ合い楽しく歌っています。今年、六月に島根県合唱祭



にも参加し、島根県内の中・高・大学生、一般の部、各々の年代の持つハーモニーに感動しました。感動の輪を広げ江津の町を歌声あふれる町に出来ればと願うばかりです。最後に、江津市文化協会の益々のご発展を心よりお祈り致します。

アルバム



江津市書道連盟 展示



江津市文化協会茶道部表千家



裏千家淡交会江津支部



絵画クラブ 展示



江津市民混声合唱団



江津パフォーマンスドール



文化協会華道家元池坊部会 展示



箏曲 竹の会



嘉戸青壮年傘おどり隊



さくらえ番傘川柳会 展示



清吟堂吟友会 浜田ブロック



江津市連合併句会 展示



江津高校書道部 書道パフォーマンス



江津工業高校生徒 制作ゲート



江津市文化財研究会 展示



ウロコアート佐々本順左衛門氏 体験ブース



ジュニア邦楽塾 演奏



江津高校神楽愛好会 演目：恵比寿



石見音楽文化振興会 演奏



跡市田植えばやし保存会



泉墨会 清水泉州氏 展示



江津市文化協会事務局有志



嵯峨御流華道石見司所 迎え花



盆栽会 展示



江津短歌会 展示



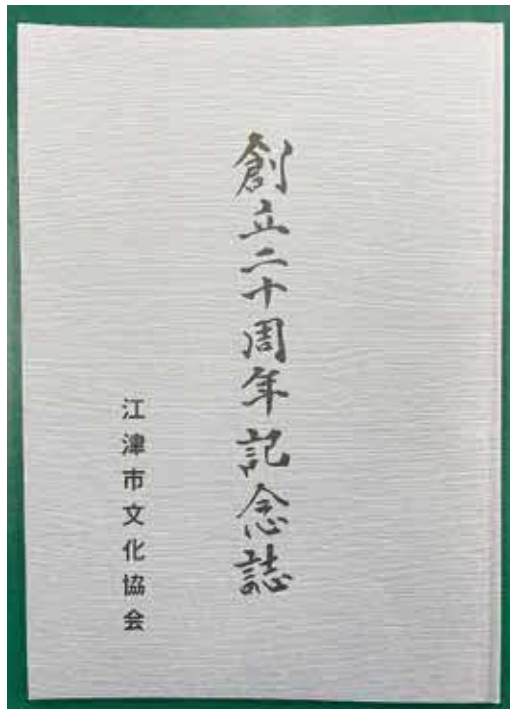
日本舞踊 藤間流 藤恵会



日本舞踊 友扇会



石見智翠館高校吹奏楽部



20周年、30周年記念誌 表紙

江津市文化協会規約

(名称及び事務所)

第1条 この会は、江津市文化協会と称し、事務所を江津市教育委員会社会教育課内に置く。

(目的)

第2条 この会は、江津市における文化活動の振興発展を図るとともに、市民の文化意識の啓発・鑑賞能力の向上に努めることを目的とする。

(組織)

第3条 この会は、前条の目的に賛同し、江津市で活躍する団体及び個人をもって組織する。

(部会)

第4条 本会の運営を円滑に推進するため、次の部会を置く。

- (1) 茶・華道部
- (2) 美術部
- (3) 園芸部
- (4) 郷土史部
- (5) 文芸部
- (6) 芸能部
- (7) 音楽部

(事業)

第5条 この会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各種の文化事業に関する事。
- (2) 市内の各種文化団体の育成・援助及び連絡調整に関する事。
- (3) 市民の文化意識の啓発に関する事。
- (4) その他目的を達成するため必要な事。

(役員)

第6条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 理事 若干名
- (5) 代議員 若干名
- (6) 監事 2名
- (7) 幹事 若干名
- (8) 部長 7名

(役員を選出)

第7条 会長、副会長は、理事会において選出し、代議員会で承認を受ける。

- 2 理事及び監事は、代議員会において選出する。
- 3 代議員は、別表1のとおり選出する。
- 4 事務局長及び幹事は会長が委嘱する。
- 5 部長は、部会において選出する。

(顧問)

第8条 この会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

(任期)

第9条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 任期の途中で就任したときは、前任者の残任期間とする。

(役員の任務)

第10条 役員の任務は次のとおりとする。

(1) 会長は、この会を代表し、会務を総理する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があったときこれを代理する。

(3) 事務局長は会務を処理する。

(4) 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。

(5) 代議員は、代議員会を構成し、会務を審議、議決する。

(6) 監事は、この会の会務を監査する。

(7) 幹事は、事務局長を補佐し、庶務、会計を処理する。

(8) 部長は、部会を代表する。

(会議)

第11条 この会の会議は、代議員会・理事会及び部会とする。

2 代議員会は、総会に代わる議決機関とし、年1回以上定期又は、臨時に会長が召集して開催する。

3 理事会は、必要に応じて会長が召集し、会務の執行に関する事項について協議する。

4 代議員会に付議する事項は、次のとおりとする。

(1) 事業報告並び決算に関すること。

(2) 事業計画並び予算に関すること。

(3) 規約の改廃に関すること。

(4) 会費に関すること。

(5) 会長、副会長の承認に関すること。

(6) 理事及び監事の選出に関すること。

(7) その他重要事項。

5 部会は、必要に応じて部長が召集し、部の事業の推進に関する協議をする。

(会費)

第12条 この会の会費は、別表2のとおりとする。

(会計)

第13条 この会の経費は、会費、補助金、寄付金及び事業収益をもってこれに充てる。

(年度)

第14条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(慶弔費)

第15条 会長・副会長についての慶弔に関する儀礼については、その都度会長・副会長で協議する。

2 会長・副会長以外の役員については、祝電・弔電を送るものとする。

3 特に文化協会に著しく貢献のあった役員本人、もしくは非現職の役員本人の慶弔に関する儀礼については、会長・副会長が判断する。

(雑則)

第 16 条 この規約に定めるもののほか、必要な事項が生じたときは、理事会に諮って会長が定める。

附 則

この規約は、昭和 59 年 5 月 28 日から施行する。

附 則

この規約は、昭和 61 年 5 月 30 日から施行する。

附 則

この規約は、昭和 62 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

この規約は、平成 3 年 6 月 18 日から施行する。

附 則 (桜江町編入に伴う経過措置)

桜江町の編入の日の前日まで、桜江町文化協会に加入し活動していた団体又は個人の江津市文化協会への加盟は、郷土史部、文芸部及び芸能部の 3 部 (以下、「該当 3 部」という。)に限っては、第 12 条の規定にかかわらず、施行の日の属する会計年度から 3 か年間、別表 2 の団体加盟を当該 3 部と読み替えるものとする。

なお該当 3 部内の団体数若しくは個人数は、問わないものとする。

2. この規則は、平成 17 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

この規約は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規約は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規約は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

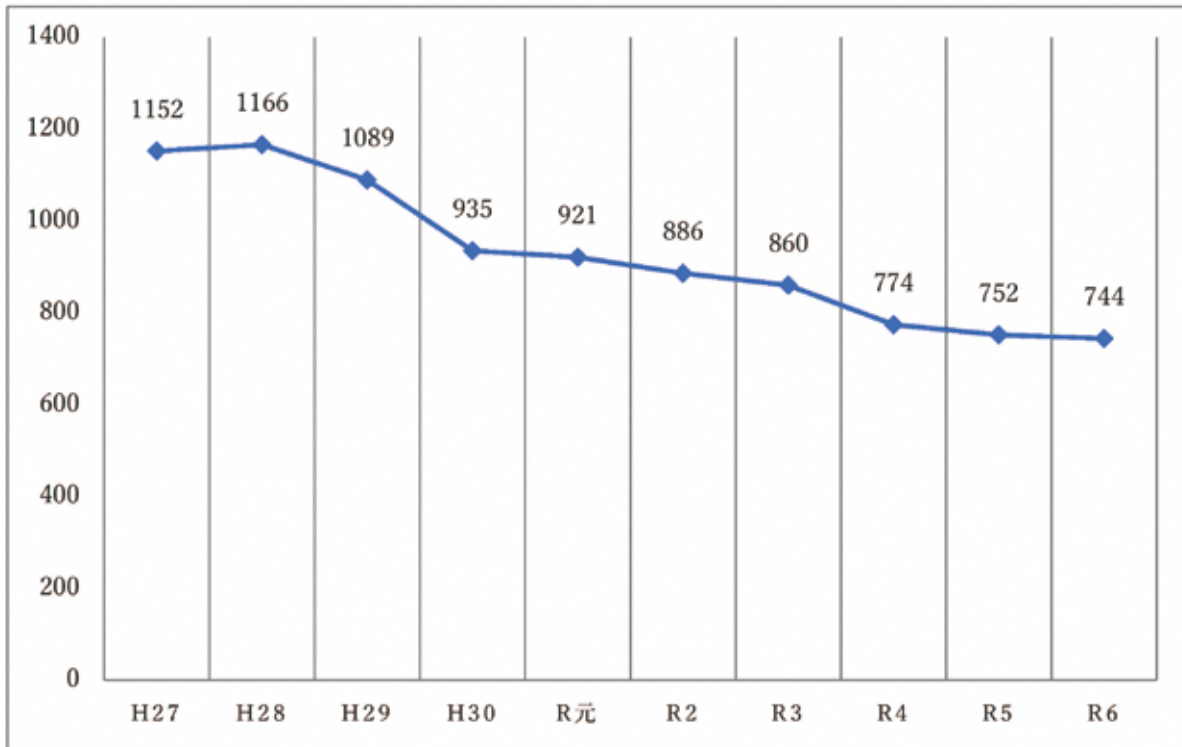
別表 1

区 分	員 数
団体加盟	各 1 名
個人加盟	個人会員

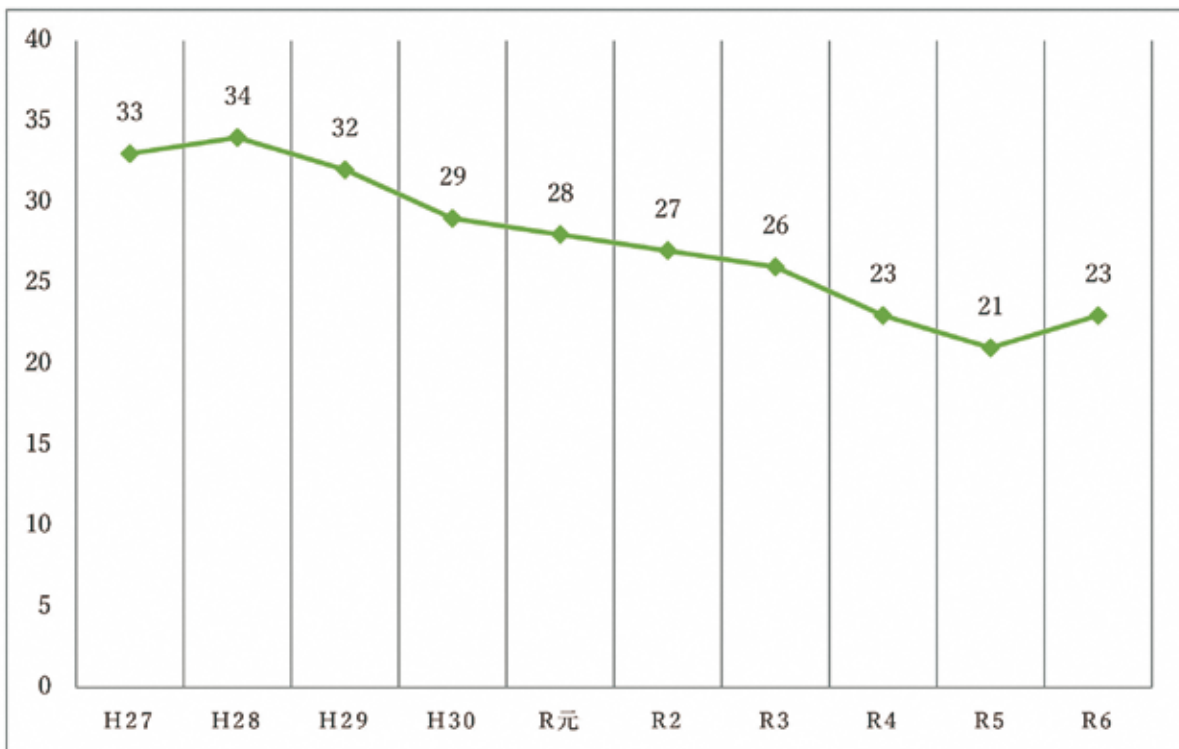
別表 2

区 分		会 費
団体加盟	50 名以上	1 団体につき年額 7,000 円
	40 名～ 49 名	年額 6,000 円
	30 名～ 39 名	年額 5,000 円
	20 名～ 29 名	年額 4,000 円
	10 名～ 19 名	年額 3,000 円
	2 名～ 9 名	年額 1,500 円
個人加盟		年額 1,000 円

総会員数の変遷



団体数の変遷



江津市文化協会 役員名簿

役員名				氏名				団体名																																				
会長	森脇東雲	江津書道連盟	副会長	渡辺康乃	さくらえ番傘川柳会	鹿森偉左雄	清吟堂吟友会 浜田ブロック	宮里勝子	江津短歌会	植田畦水	江津書道連盟	高橋百合子	江津市民混声合唱団	安井久子	江津市文化協会茶道部表千家	田中俊晞	木寿会	理事	松井宏祐	江津写真クラブ	島崎義治	江津盆栽会	中村芳江	琴名流大正琴琴扇芳の会	監事	田中健一	江津市民混声合唱団	平野勇治	江津市文化財研究会	顧問	堀康弘	江津市教育委員会教育長	事務局長	大賀昌紀	社会教育課課長	事務局	大地本江美	社会教育課課長補佐	永井慶彦	社会教育課主任主事	持田直人	社会教育課主任主事	岩本千穂	社会教育課主事

編集を終えて

江津文化協会創立四十周年の記念誌が刊行の運びとなりました。多くの皆様のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この十年は目まぐるしい時代の変化がありました。

文化協会の果たす役割は、生活のゆとりと潤い、生きがいなど精神的な充足感をもたらす大きな一助となりますが、コロナ禍では活動の自粛や中止に追い込まれた三年間を過ごしました。また、時代の流れには逆らえず会員は高齢化の一途を辿っています。

温暖化により気象観測が始まって以来の猛暑にも負けず精進している結果を文化祭では発表しました。

このようなことは当たり前のように幸せなことではないでしょうか。江津市民一人ひとりのお力添えとなる文化協会であり続けたい、そしてこの記念誌が四十年の重みを次代につなげる、そんな一冊であればと思います。

令和七年三月吉日

宮里 勝子
植田 畦水

編集委員

編集委員長

森脇 東雲

編集副委員長

宮里 勝子

編集委員

植田 畦水

深野 富夫

花田 寿美

黒川 滋子

森畑 弥生

佐々木真奈美

江津市文化協会創立四十周年記念誌

発行 令和七年三月

編集 江津市文化協会

島根県江津市江津町

江津市教育委員会社会教育課

印刷 柏村印刷株式会社

